

政策シート

2025年度	(管理番号)					担当課名
	分野	基本政策		政策		環境政策課
	04	02	01	02	01	

政策
生物多様性の保全

政策の内容

生物の生息・生育場所の保全のため、自然共生サイトの登録を推進するとともに、生態系や市民生活、農作物への被害が懸念される特定外来生物の防除を推進します。
市民、市民活動団体、事業者が連携して環境保全活動に取り組むパートナーシップ活動の拡大を図ります。加えて、主体的に環境保全活動に取り組む市民を増やすため、環境教育を推進します。

生活満足度に関する指標(個別指標)

指標名	質問文	基準値 2024年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度	2029 年度
自然環境の豊かさ	あなたの暮らしている地域では、豊かな自然環境が守られ、自然と触れ合うことができていると感じますか。	3.16	3.12				

※総合計画基本計画に係る市民意識調査(アンケート)の結果

現状・課題

「昆明・モントリオール生物多様性枠組」及び「生物多様性国家戦略2023-2030」では、2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として保全する「30by30目標」が掲げられた。本市としてもこの目標に貢献していくこととし、「生物多様性はままつ戦略2024」において、保護区域及び自然共生サイトの拡大を重点プロジェクトの一つに位置付けた。

生物多様性の保全を目的に、特定外来生物アライグマ、クリハラリス、ヌートリアの防除に継続的に取り組んでいるが、依然として生息が確認されており、生態系等への影響が懸念される。特にヌートリアは近年、捕獲業務及び目撃情報から生息域の拡大とそれに伴う生息数の増加が推測される。

生物多様性の損失を止め反転させる「ネイチャーポジティブ」の実現のためには、市民、市民活動団体、事業者、行政が主体的かつ連携して環境保全活動に取り組む必要がある。SDGs(持続可能な開発目標)の取組の広がりによって、事業者の環境保全活動に対する意欲が高まっているが、市民活動団体の高齢化、資金不足等により活動が停滞している場合がある。

政策コストの状況(千円)	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度
予算	40,808				
決算	37,369				

※「①事業活動(アクティビティ)」の予算・決算の合計

人工	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度
正規職員	10.0				
会計年度任用職員	1.0				
暫定再任用職員(31時間勤務)	1.0				
暫定再任用職員(26時間勤務)	0.0				

①事業活動(アクティビティ)

事業名	事業内容	2025年度 予算 (千円)
		2025年度 決算 (千円)
生物多様性保全 事業	1 自然共生サイト登録推進事業 市内の都市部にある都市公園及び緑地を保全、維持し市民と価値を共有するため、自然共生サイトの登録に向けた、地域における生物の増進のための活動の促進等に関する法律に基づく生物多様性増進活動実施計画を作成する。 2 特定外来生物対策事業 引き続き、特定外来生物アライグマ、クリハラリス、ヌートリアによる生態系等への影響を防ぐため、市内で根絶に向け防除対策を実施する。2025年度からは、講習会を受講した市民を浜松市ヌートリア防除実施計画に基づく捕獲従事者に登録し、市民協働による捕獲を実施する。 3 パートナーシップ活動の拡大 事業者による環境保全活動を促し、市内における環境保全活動を活性化するために、市民活動団体と事業者のマッチングを行う。 4 動植物モニタリング調査 生物多様性はままつ戦略に基づき、浜松市域における生物多様性の状況を把握するため、現地調査を行い、対象種の生息・生育状況の推移を確認する。 5 その他の生物多様性保全事業 ギフチョウ、タガメ等の希少動物の保護の対策など生物多様性を保全するためのさまざまな事業を実施する。	38,465
		35,091
環境教育推進事 業	1 環境学習会開催等事業 主体的に環境保全活動を実践する市民を増やすため、学校や地域等で開催される学習会に環境学習指導者を派遣するとともに、担い手となる環境学習指導者を養成する。また、市民参加型の生きもの調査、自然観察会等の自然体験活動を通して自然とふれあいを創出し、市内の環境学習及び環境保全活動を活性化させる。	2,343
		2,278

※予算・決算は各事業に係る経費を計上

②活動(アウトプット)指標

指標名	指標の定義	設定理由		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度	2029 年度
市域における自然共生サイト登録に向けた、生物多様性増進活動実施計画の作成件数(件)	地域における生物の多様性の増進のための活動の促進等に関する法律に基づく市の増進活動実施計画書の作成件数	生物多様性増進活動計画を作成し自然共生サイトに認定されることにより、生物多様性の価値が明確化され市内の生物多様性の増進が見込まれる。	目標値	-	1	1	1	1	1
			実績値	0	0				
			達成率	-	0%				
ヌートリア捕獲従事者登録者数(人)	浜松市ヌートリア防除実施計画に基づく捕獲従事者(市民)の登録者数	捕獲従事の登録者数を増やすことでヌートリアの捕獲数の増加が見込まれる。	目標値	-	20	10	10	10	10
			実績値	0	8				
			達成率	-	40%				
事業者に対する環境保全活動を促す働きかけの件数(件)	SNS、イベント、相談受付等により事業者に対し環境保全活動を促す働きかけをした件数	市内の事業者による環境保全活動の促進が見込まれる。	目標値	-	5	5	5	5	5
			実績値	2	5				
			達成率	-	100%				
浜松市環境学習指導者養成講座の修了者数(人)	移動環境教室等で講師を務める浜松市環境学習指導者の養成者数	環境学習の担い手である浜松市環境学習指導者数を増やすことで、市内の環境教育の活性化が見込まれる。	目標値	-	10	10	10	10	10
			実績値	14	11				
			達成率	-	110%				

※達成率は該当年度の目標値に対する実績値から算出する。

③短期成果(アウトカム)指標

指標名	指標の定義	設定理由		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度	2029 年度
市域における自然共生サイト登録に向けた、生物多様性増進活動実施計画の累計認定件数(件)	地域における生物の多様性の増進のための活動の促進等に関する法律による生物多様性増進活動実施計画認定数	認定を受けることにより、環境保全活動が促進され、市内の生物多様性が増進されることが見込まれる。	目標値	-	1	2	3	4	5
			実績値	0	1				
			達成率	-	100%				
市民捕獲従事者によるヌートリアの年間捕獲数(頭)	浜松市ヌートリア防除実施計画に基づき登録された捕獲従事者(市民)によるヌートリアの年間捕獲数	市民協働によるヌートリアの捕獲を進めることで、ヌートリアによる生態系及び生活被害が減少し、生物多様性が保全されることが見込まれる。	目標値	-	20	30	30	30	30
			実績値	0	1				
			達成率	-	5%				
環境保全団体と事業者との累計マッチング件数(件)	事業者による環境保全団体に対する支援の斡旋件数	市内の事業者による環境保全活動により生物多様性の保全が見込まれる。	目標値	-	4	7	10	13	16
			実績値	1	2				
			達成率	-	50%				
移動環境教室の年間受講者数(人)	学校や地域等で開催される学習会に環境学習指導者を派遣して開催される環境学習会の受講者数	身近な自然や地球規模の環境問題について学習する機会を設けることで、主体的に環境保全活動に取り組む市民の増加が見込まれる。	目標値	-	10,000	10,500	11,000	11,500	12,000
			実績値	9,747	12,902				
			達成率	-	129%				

※達成率は該当年度の目標値に対する実績値から算出する。

④長期成果(アウトカム)指標

指標名	基本計画 指標	指標の定義		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度	2029 年度	目標値 2034 年度
自然公園等の保護地域及 び自然共生サイトの面積 (ha)	○	自然公園法等の法令による 保護地域の面積と民間等の 取組により生物多様性が保 全されている地域の重複を 除いた合計面積	実績値	47,932	47,933					48,081
			達成率	100%	100%					

※達成率は2034年度の目標値に対する実績値から算出する。

⑤目的:10年後(2034年)の理想の姿

市民一人ひとりの日常生活や事業者の経済活動において、環境に対する負荷が低減するとともに、環境を保全する活動が浸透し、豊かで良好な自然環境と社会経済活動が共存し、快適で安全・安心な生活環境が確保されている。

【2025年度の評価】

「①事業活動(アクティビティ)」の実施内容と事業改善(2026年度記載)

事業名	実施内容	事業改善の内容や今後の方向性
生物多様性保全事業	1 自然共生サイト登録推進事業 自然共生サイトの登録に向けて、伊左地緑地及び半田緑地の自然環境調査及び生物多様性の評価を行った。 2 特定外来生物対策事業 特定外来生物による生態系等への影響を防ぐため、業務委託及び市民捕獲従事者によりアライグマ16頭、クリハラリス1,478頭、ヌートリア227頭を捕獲した。 3 パートナーシップ活動の拡大 市内の環境保全活動を活性化させるため、パートナーシップ制度の推進により、市民活動団体と事業者のマッチングを実現し、団体が管理する竹林整備を促進した。 4 動植物モニタリング調査 市内の生物多様性の状況を把握するため、ヤリタナゴ、アマモ場、シギ・チドリ類の専門家調査を行い、生息・生育状況の推移を確認した。 5 その他の生物多様性保全事業 生物多様性の保全と希少動植物の保護対策として、ギフチョウ散策路整備事業を実施した。	伊左地緑地及び半田緑地に関する生物多様性増進活動実施計画を作成し、自然共生サイトの登録申請を行う。また、別の候補地(2か所)の自然環境調査を実施する。 引き続き業務委託による防除を実施するとともに、市民協働による市民捕獲従事者制度の周知を図り、防除を推進する。 市民活動団体と事業者のマッチングに関する周知を強化し、事業者の環境保全活動への参加を促進する。
環境教育推進事業	1 環境学習会開催等事業 学校や地域等で開催される学習会に、移動環境教室として環境学習指導者を派遣した。また、自然体験活動としての市民協働調査(ナゴヤダルマガエル、カモ類)を開催した。 担い手を育成するための環境学習指導者養成講座を開催した。	引き続き市内の環境教育を推進するため、移動環境教室等への環境学習指導者を派遣及び、環境学習指導者を育成する。

「②活動(アウトプット)指標」の見直しの要否(2026年度記載)

指標見直しの要否	要
指標名「市域における自然共生サイト登録に向けた、生物多様性増進活動実施計画の作成件数(件)」の指標の定義では、作成者が不明であったことから、市が作成者であることを明確にするため、指標の定義を修正した。	

「③短期成果(アウトカム)指標」の見直しの要否(2026年度記載)

指標見直しの要否	否

2025年度の政策の評価と2026年度以降の取組の方向性(2026年度記載)

市内の生物多様性を保全するため、自然共生サイトの登録候補地の自然環境調査を実施するとともに、特定外来生物の防除を推進した。また、環境保全活動を促進するため、パートナーシップ活動の啓発に取り組むとともに環境教育を推進した。引き続き、生物多様性の保全、環境保全活動の推進に取り組む。 ・自然共生サイトの登録に向けた自然環境調査を2か所で実施し、2026年度に登録申請を行う。引き続き自然共生サイト登録に向けて、別の候補地2か所の自然環境調査を実施する。 ・ヌートリア防除対策を推進するため、2025年から市民捕獲従事者制度のオンライン申請を開始したが、登録者及び捕獲数は目標値に届かなかった。市民へのなお一層の周知を図り、防除を推進する。 ・支援内容の違いや支援を希望する事業者数の少なさから、環境保全団体と事業者とのマッチング件数は目標値を下回った。事業者への働きかけを強化することによって支援希望事業者を増やし、マッチングを促進する。 ・浜松市環境学習指導者養成講座修了者数及び移動環境教室受講者数ともに目標値を上回った。引き続き、事業を実施する。
--